

義とされる者

(ルカ18・9～14)

一、18章1～14節をめぐって

18章1節から14節は、主イエスが語られた話だけが載っているのではなく、福音書記者ルカによる解説のことばが書かれています。1節は、ルカによる解説のことばです。主イエスが語られたことばを、ルカがへいつでも祈るべきで、失望してはいけないことを教えるため、に語られたと受け取り、福音書に載せました。同じことが、9節から14節にも言えます。ここで、主イエスが語られたことばは、10節から14節までであって、9節は解説です。ルカは、主イエスが語られた話を「たとえ」としていますが、2節から14節を見ますと、実際にあった話であるかも知れません。現に、9節に書かれている「たとえ」を外している写本もあるくらいですから。さらにルカは、**自分は正しいと確信**して、ほかの人々を見下している人たちに、イエスはこのようなたとえを話された」と解説していますが、それはルカの見解であって、主イエスが語られたことばは、その他にも適用がある

と、受け取ることもできるわけです。

私たちはイエスキヤマのことばを勝手に解釈してはまずいですが、歴史上の主イエスが語られたことばについては、

祈りつつ、貪欲に探って行くことも、大切なのではないでしょうか。

二、パリサイ人

ご存じのように、イエスの時代にパリサイ人と言われるユダヤ人の一派がいました。律法、すなわち旧約聖書のことばを厳格に守る生活をしていました。ですから「正しい人たち」で、次のような生活を目指していました。11節、12節です。パリサイ人は立って、心の中心でこんな祈りをした。『神よ。私がほかの人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦淫する者でないこと、あるいは、この取税人のようでないことを感謝します。私は週に一度断食し、自分が得ているすべてのものから、十分の一を献げております。』と。キリストを信じる私たちから見ると「これは祈りではない」と言いたくなるのですが、パリサイ派のユダヤ人にとっては「立派な祈り」だったのであります。ということからしても、ここで語られた主イエスのことばは、「たとえ」というよりも、実際に主が見聞したことであって受け取った方がリアリティ、すなわち現実味が増すのではないのでしょうか。パリサイ人は、律法の教えを守ることによって、自分は正しい者であると確信していました。自分が正しいとい

うことは、他の人々を、殊に取税人は当時「罪人」と呼ばれていましたから、見

下していました。このパリサイ人が行っていたことは、自らが高慢になり、他者を見下していたこと以外、神の律法に則していました。悪い人たちではなかったのです。良い人たちであったとは言えませんが、正しい人でした。

三、取税人

一方の取税人は、ユダヤ人でありながら、当時イスラエルを治めていたローマ帝国の手先になりました。ですから、普通はだれもやりたがりませんでした。したがって、この職業に就くということは、同胞から嫌われることを覚悟の上で始める、底辺の仕事でした。もちろん、取税人として、一括りにすることはできないと思います。止む得ぬ事情から取税人になった方もいたでしょうし、自分から好んでその道に入った方もいたかも知れません。また、マタイのように求道心が強い取税人もいましたし、ザアカイのように、心の奥底において自分が失われた存在であることに気づいていた取税人もいました。

主イエスが語られた取税人は、おそらく例外中の例外です。主と共に十字架刑になった二人の犯罪人の、悔い改めたほうのような人です。彼がそれまでどんな人生を歩んできたのか、読者には知る由もありません。私たちが分かるのは、彼が取税人であって、正しい

人間ではなかったということです。と言いますのは、13節で主が語っておられるからです。一方、取税人は遠く離れて立ち、目を天に向けようとせず、自分の胸をたたいて言った。『神様、罪人の私をあわれんでください。』と。取税人はこのように告白をしたがゆえに、性格が素直であったかのようにも見えますが、これまでにやって来たことは、彼以外の取税人とさほど変わらなかったことと思われま。ただし、この取税人は自分が罪深い人間であることを知っていたのです。それだけではありません。神の前に「神様、罪人の私をあわれんでください」と言いました。すると、主は言われました。14節前半です。

「あなたがたに言いますが、義と認められて家に帰ったのは、あのパリサイ人ではなく、この人です。」と。

「私は、罪人である」「私は、どうしようもない罪人である」「私は心の奥底に、神のご性質である『聖なるもの』と全く反対のものがある」「私は自分という存在に、ついに愛想を尽かした」と知るとき、実はそこが神と出会う場所です。そこを通りますと、「私はキリストにあって新しく生まれ変わった者である」「私は上から新しく生まれた者である」「これは神の恵み以外の何ものでもない」「神は生きておられる」「聖霊が私に触れてくださった」と知るようになりま。それは、主のみわざです。